

活動レポート

道東技術士会

平成 19 年度第 1 回総会を開催

はじめに

技術士会北海道支部会員の皆様におかれましては、ご活躍のことと拝察いたします。

今年の夏は、7 月までは涼しい日が多く夏が来ないのではないかと心配していましたが、8 月にはいると一転して大変暑い日がつづき、今年から使われだした猛暑日に該当する 35℃以上の日も数日ありました。

さて、今回の活動レポートでは、6 月に開催した総会と同時開催の講演会について報告致します。

1. 講演会

総会に先立ち、CPD（継続教育）として講演会を行いました。

今回は、釧路道路事務所長の谷村技術士に、釧路地方の道路整備の現状や課題について、道路事業者の立場から講演していただきました。

演題：釧路地方の道路整備について

講師：釧路開発建設部 釧路道路事務所長

谷村昌史 技術士

講演要旨

1) 北海道における高速道路の整備状況について
日本の高速道路は、1966 年（昭和 41 年）国土開発幹線自動車道建設法で 7,600 km、1987 年（昭和 62 年）第 4 次全国総合開発計画で 14,000 km がそれぞれ計画されており、本州ではこの内の約 80%が供用済みであるのに対し、北海道では供用区間が約 60%にとどまっている。

このことから、全国においてはほぼ全ての都府県を高速道路がネットワークしているのに対し、北海道においては各支庁のネットワーク化が未だ進んでいない状況である。

2) 釧路開発建設部における道路整備について
釧路地域における道路の現状と課題及び今後の整備方針は以下である。

現状と課題

- ・十勝、道央方面への安全性確保と高速化が必要。
- ・釧路市に都市機能が集中しており、周辺地域からの依存度が高いことから、市街地における交通混雑の解消が必要。
- ・釧路地域は死亡事故の発生率が高い。
- ・エゾシカとの衝突事故が多発しており、エコロードの対策が急務である。

道路の整備方針

- ・高速道路の整備により輸送の効率化を図るとともに、安全性も向上する。
- ・外郭環状道路の早期供用により、渋滞解消や沿道環境の改善を図る。
- ・ランブルストリップスの整備により、郊外部での正面衝突事故を減少させる。
- ・シカ横断施設やシカ柵の整備やドライバーに対する注意喚起などハード・ソフト両面での対策を実施する。
- ・地吹雪による視程障害ハザードマップを作成し、安全な交通を確保する。

3) 道路特定財源について

道路特定財源制度は、受益者である自動車利用者が道路整備費を負担する制度であり、揮発油税や重量税などを暫定税率として本則税率の 2 倍程度としている。

平成 18 年度には国会において、一般財源の不足から特定財源の一般財源化が議論されたが、北海道開発予算の約 4 割、道路関係予算のほとんどが道路特定財源からの予算であり、道路特定財源が大きく減少した場合は新直轄やバイパス道路の整備ができな

い状況になるものと心配された。

結果的には、中期計画において、真に必要な道路整備は中期的な整備目標とその達成に必要な事業量を明示することで、道路整備が可能となった。



谷村講師

2. 平成 19 年度 第 1 回総会

日 時：平成 19 年 6 月 15 日 午後 6 時

場 所：釧路プリンスホテル

出席者：35 名（技術士 16 名、技術士補 19 名）

当会では、釧路と帯広で年 2 回総会を行っており、今年度も例年同様、春に第 1 回総会を釧路において開催しました。

冒頭、星山会長は、近年、仕事の減少・競争の激化などコンサルは厳しい状況ですが、プロポーザルの評価基準、業務の管理・照査技術者の要件及びテクリス・アグリスにおける企業の評価などにおいて技術士に対する社会的要請が高まっています。

このことから、我々技術士は自ら研鑽する必要

があり、道東技術士会においても講演会など CPD（継続教育）の機会を提供するよう努力していきたいと思います。また、当会のホームページを作成し、CPD 予定の周知や情報の共有についても今後検討していきたいと挨拶しました。

会長挨拶の後、講演をいただいた谷村技術士からの提案もあり、コンテンツの作成が議題となりました。技術士会支部のホームページ上に各地方組織のコンテンツが作成されていますが、当会では現在まで作成には至っておりませんでした。

協議を行った結果、当会においてもコンテンツの作成に取り組むこととなり、環境コンサルタント(株)の濱口技術士補が担当することとなりました。

おわりに

当会の主な活動は、会員の親睦と情報交換を目的とした年 2 回の総会、CPD として科学技術に関する講演会（総会に合わせて開催）、紅葉技術士が呼びかけ人となって開催している十勝技術士有志の会です。

建設業界では CPD への取り組みを評価する方式が導入され始めるなど、技術士を含め CPD への関心が高まっています。会長挨拶にもあったように、当会においても CPD の機会を提供するよう努力していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈りし、道東技術士会の報告とさせていただきます。

（文責：道東技術士会幹事 上野 博司）